

食育推進計画

分野	施策	計画掲載ページ	R7年度 事業計画	R7年度 実施状況	R7年度 課題・評価	R8年度 事業計画	市の担当課
健康寿命の延伸につながる食育の推進	①ライフステージに沿った食育の推進 ②生活習慣病の予防と健康づくりのための食育の推進	P114～116	○健康はつかいち21推進協議会事業 ・朝食コンテスト実施 ・食のアンケート実施 ・健だまっこ部会レシピ作成・配布 ○食生活改善推進員連絡協議会事業 ・こどもの料理教室(廿) ・やさいの日普及啓発(廿) ・健康づくり交流会(廿) ・献血での試食提供(廿) ・JA広報紙掲載による食育推進(全) ・ウオーキングリーダー会交流会(全) ・日本食生活協会からの委託事業(全) ・地域活動栄養士会、広島国際大学、山陽女子短期大学と連携した、あいブラザまつりでの食育啓発(全) ○西部保健所、大竹市と連携したベジチェック集計表を活用した野菜摂取に関する啓発 ○健診結果説明会での栄養相談の実施 ○ハートピクス(健康教室)での食育と運動を結びつけた講座と実技	○健康はつかいち21推進協議会事業 ・朝食コンテスト実施(応募数223作品)(2年に1回開催) ・朝食コンテスト入賞作品を用いた啓発(あいプラサ・市民センター・図書館・支所・市内小学校・商業施設での展示・ホームページ及びLINE掲載) ・食のアンケート実施(1,053件回収) ・健だまっこ部会レシピ作成 ○食生活改善推進員連絡協議会事業 ・こどもの料理教室(7/28、18人参加)(廿) ・やさいの日普及啓発(8/31、200人)(廿) ・健康づくり交流会(10/27、20人)(廿) ・献血での試食提供(10/17、50人・1/16、50人)(廿) ・JA広報紙掲載による食育推進((年回6回)全) ・ウオーキングリーダー会交流会(11/15、34人)(全) ・日本食生活協会委託事業(シニアカフェを佐伯支部・骨太クッキングを吉和支部で計3回実施)(全) ・地域活動栄養士会、広島国際大学、山陽女子短期大学と連携した、あいブラザまつり(11/2、体験型栄養相談、ベジチェック測定、バランスのよい食事について動画上映 延べ152人)(全) ・伝達講習会(集会735回、人数5,518人)(全) ○食生活改善推進員研修会(各地区年間4回・計12回)(全) ○西部保健所、大竹市と連携したベジチェック集計表を活用した野菜摂取に関する啓発(261人) ○健診結果説明会での栄養相談の実施(合計5回、計79名参加) ○ハートピクス(健康教室)での食育と運動を結びつけた講座と実技(合計6回、計延べ人数192名、実人数40名)	○朝食コンテストの応募者全員に実施したアンケート結果、朝食摂取率は横ばいで、朝食摂取の重要性を普及する継続した取組が必要である。 (朝食摂取率小学校5.6年生 R5 76% → R7 76%) また、料理を作るとき手伝うことがあるかの問いには、小学校5年生では63%から56%と減少したが、小学校6年生では50%から65%と大きく改善した。朝食コンテストがきっかけとなり、今後、料理を手伝う子どもが増えることを期待する。参加応募数は、前回と比べ397作品から223作品と減少。教育委員会と更に連携し、学校栄養教諭や担当教諭への声かけなど、周知・依頼に取り組む必要がある。初の取組として、市内学校栄養教諭が『学校栄養士特別賞』を1作品選定した。今後も、「給食」を用いた「朝食の大切さ」の普及・啓発を検討していく。大塚製薬との共催により、市内商業施設での入賞作品一覧展示を実施し、より多くの市民に、朝食コンテストの実施や朝食の重要性を周知できた。 ○R7年度に実施した廿日市市「食」に関するアンケートの結果、野菜の日の認知度が増加した。引き続き、やさいの日(8月31日)の周知やベジチェック測定会を保健事業等で実施し、子どもから高齢者まで野菜摂取の重要性を分かりやすく、普及啓発していく。(やさいの日を知っている R6 28%→ R7 36%) ○地域単位で栄養・食生活対策を広める食生活改善推進員の会員の増加に向けた取組が必要。市の課題を廿日市、佐伯、吉和3支部で共有し、さらなる事業の展開が必要。また、宮島での継続した食育活動の支援や大野地域での健康おおの21等と連携した食育の推進を図る必要がある。 ○健診結果説明会での栄養相談を実施した。フードモデルを活用しながらの実施であるため、より対象者に自分の食生活について意識してもらえたと考ええる。今後も引き続き実施する。 ○ハートピクス(健康教室)での食育と運動を結びつけた講座と実技を実施した。最終回のアンケートでは、満足度が高く、教室参加前後で行動変容や意識変容があった方が多くいたため、効果的な教室が実施できたと考える。しかし、連続参加者率が高く、40代参加者がいないため、次年度から見直しが必要である。	○健康はつかいち21推進協議会事業 ・食のアンケート実施 ・健だまっこ部会作成のレシピ配布 ○食生活改善推進員連絡協議会事業 ・こどもの料理教室(廿) ・やさいの日普及啓発(廿) ・健康づくり交流会(廿) ・献血での試食提供(廿) ・JA広報紙掲載による食育推進(全) ・ウオーキングリーダー会交流会(全) ・日本食生活協会からの委託事業(全) ・地域活動栄養士会と連携したあいブラザまつりでの食育啓発(全) ・伝達講習会(全) ○食生活改善推進員研修会 ○西部保健所、大竹市と連携したベジチェック集計表を活用した野菜摂取に関する啓発 ○健診結果説明会での栄養相談の実施 ○健診後の生活習慣病予防教室の実施。ハートピクスに変わる、新しい生活習慣病予防教室をR9年度から実施できるよう、調整していく。 ○ゆめタウン廿日市における健康啓発イベントの実施(地域共生社会推進室と共催)	健康推進課
			○離乳食講座・育児相談・10か月面談・1歳6か月児健診・3歳6か月児健診・5歳児健診(相談)での食育に関する啓発の実施	○離乳食講座(全域15回)・育児相談(全域37回)・10か月面談(全域33回)・1歳6か月児健診(全域45回)・3歳6か月児健診(全域45回)・5歳児健診(全域40回)	○離乳食講座では参加者に対して、動画等を用いてわかりやすいように説明を行った。育児相談や10か月児面談、各健診では、希望者は栄養士による個別相談を実施し、不安や悩みの解消ができたと考ええる。今後も引き続き実施する。	○離乳食講座・育児相談・10か月面談・1歳6か月児健診・3歳6か月児健診・5歳児健診(相談)での食育に関する啓発の実施	子育て応援室
			○栄養バランスの良い献立作成と保育園給食の提供 ○食育の日の取組実施 ○給食展示食の実施 ○給食だより及び献立表の配付 ○給食試食会の実施 ○食生活アンケートの実施 ○野菜の日、和食の日の啓発及びレシピ配布 ○食物アレルギー対応及び個別配慮	○栄養バランスの良い献立作成と保育園給食の提供 ・各保育園の給与栄養目標量を参考に、栄養バランスや嗜好に配慮した献立作成をしている ○食育の日の取組実施 ・各施設の特性や地域性に合わせた食育の実施ができている ○給食展示食の実施 ・実物の展示やデジタルでの展示等、様々な方法で提供した給食のお知らせをしている ○給食だより及び献立表の配付 ・給食だよりについては各園の状況に合わせて実施。献立表については毎月保護者へ配付またはデータ送付等でお知らせをしている ○給食試食会の実施 ・各園の状況に合わせて実施している。 ○食生活アンケートの実施 ・1月にコードモンで実施(641件回収)。 ○野菜の日、和食の日の啓発及びレシピ配布 ・8月31日(やさいの日)と11月24日(いいわしよの日)に保護者へ向けて保育園給食レシピをコードモンでデータ配付した。(公立保育園) ○食物アレルギー対応及び個別配慮 ・食物アレルギー対応や個別配慮食といった食事が提供されている。	○栄養バランスの良い献立作成と保育園給食の提供ができている。 ○食育の日に各施設の特性や地域性に合わせた食育の実施ができている。 ○給食展示食は実物の展示やデジタルでの展示等、様々な方法で提供した給食のお知らせをしている。 ○給食だよりの発行が配属された職員によって難しい場合があるため、公立保育園では15園共通の給食だよりを発行検討する。 ○給食試食会の開催時、幼児に対して栄養士や給食調理員から食に関する悩みを保護者から聞き取り、食育や施策へ反映する必要性を感じる。 ○1月に食生活アンケートの実施し、保護者の食に関する悩みについて伺った。その結果を踏まえて保育園での食育の取り組みを検討したい。 ○野菜の日については、野菜の日レシピの配付を毎年しているが、「野菜の日」に関する保護者の認知度が上がっていない。レシピだけでなく、保育園栄養士や給食調理員の声かけや、アプローチの必要性を感じる。また、保育園ならではのこどもの体験・制作と絡めた野菜摂取増加への取り組みも検討したい。 アレルギー児へ提供する食事や個別配慮食について、園ごとの対応にばらつきがあるため、監査での確認・助言や必要に応じて研修を開催する等検討したい。	○栄養バランスの良い献立作成と保育園給食の提供 ○食育の日の取組実施 ○給食展示食の実施 ○給食だより及び献立表の配付 ○給食試食会の実施 ○食物アレルギー対応及び個別配慮	こども課

分野	施策	計画掲載ページ	R7年度 事業計画	R7年度 実施状況	R7年度 課題・評価	R8年度 事業計画	市の担当課
健康寿命の延伸につながる食育の推進	①ライフステージに沿った食育の推進 ②生活習慣病の予防と健康づくりのための食育の推進	P114～116	○学校における食に関する指導の全体計画に基づく指導の実施 ○給食だより等の配布による啓発 ○給食センターでの食育事業を通した食育の普及啓発 ・第5回大野学校給食センター学校給食フェスタの開催 ・大野学校給食センター見学試食会 ・大野学校給食センター探検ツアー ・大野学校給食センター親子試食会	○学校における食に関する指導の全体計画に基づく指導の実施 ○給食だより等の配布による啓発 ○給食センターでの食育事業を通した食育の普及啓発 ・第5回大野学校給食センター学校給食フェスタの開催 テーマ「今こそ伝えたい！給食の魅力」、来場者350人超 来場者アンケート回答者の95%が「給食の魅力を感じることができた」と回答 ・大野学校給食センター見学試食会 年5回開催、参加者累計88人 ・大野学校給食センター見学会 年8回開催、参加者累計276人 ・大野学校給食センター探検ツアー 7月25日に2回開催、参加者累計64人 ・大野学校給食センター親子試食会 2月18日・2月25日に開催、参加者累計58人	○各学校における食育については全体計画に基づいて実施されており、引き続き学校教育全体で食育の推進に取組む必要がある。 ○給食だより等、食育に関する情報が児童生徒や家庭・地域に届くよう、より効果的な発信方法を検討していきたい。 ○大野学校給食センターでは、年間を通じて計画的・継続的な食育事業の実施ができるようになってきたので、今後は、大野学校給食センターの取組をモデルに、他地域にどのように展開していくか検討する必要がある。	○学校における食に関する指導の全体計画に基づく指導の実施 ○給食だより等の配布による啓発 ○給食センターでの食育事業を通した食育の普及啓発 ・第6回大野学校給食センター学校給食フェスタの開催 ・大野学校給食センター見学試食会 ・大野学校給食センター探検ツアー ・大野学校給食センター親子試食会 ・吉和学校給食センター給食試食会	学校教育課
			【市民センター】 ○食育講座の実施	【市民センター】 ○食育講座の実施（16事業626人参加）	○市民センターにおいて、調理実習や栄養教室などを通じて健康意識や食への関心を高める事業が行われた。また、季節の行事食やスイーツづくりなど多様なテーマで事業が展開されている。	【市民センター】 ○食育講座の実施	地域振興課
			○地場の魚介類を使用した料理教室の開催を検討。	地元産かきを使った料理教室を4回、開催した。	○かきの大量へい死が発生し、食材の確保の見通しが立たず、料理教室や祭等の開催が危ぶまれた。また、へい死に伴い、かきの買い抑えなど風評被害が発生した。	○引き続き、地元水産物を活用した料理教室や漁業体験イベントの実施	農林水産課
			○健康おおの21食と歯の部会事業(大) ・健康を守る集いででの食育啓発 ・ウオーキング講習会での軽食の提供 ○乳幼児健診や育児相談等における栄養相談(大) ○40代からの運動入門での栄養に関する講座の実施(大) ○一体的実施におけるフレイル予防カフェ、歯と口腔に関する講座等の実施 ○食生活改善推進員連絡協議会事業(吉) ・食のアンケート実施 ・ミニ伝達講習会(交流ウオーキング・認知症カフェ等)の実施 ・すこやかプラザまつりでの試食提供及びやさいの日およびフレイル予防等の普及啓発 ○フレイル予防の指導及び健康教育の実施(吉) ○熱中症予防の普及啓発(吉) ○健康はつかいち21佐伯地域会(3食食べよう会)事業(佐) ・幼児教室参加者に対する食育の話し ○離乳食講座実施(佐) ○健康はつかいち21推進協議会事業(宮) ・食の部会にて高齢者への食事提供 ・健康相談・健康チェックデーにて栄養士による栄養相談	○健康おおの21食生活と歯の健康づくり推進部会事業(大) ・健康を守る集いででの食育啓発 3/8 SATシステム使用 延参加者165人 ・ウオーキング講習会での軽食提供 10/31 参加者17人 ○乳幼児健診や育児相談等における栄養相談(大) ○今日からはじめる運動入門での栄養に関する講座の実施。全6回中3回実施。(大) ○一体的実施におけるフレイル予防カフェ、歯と口腔に関する講座等の実施(大) ・フレイル予防体操Plus+ 7/18・2/20 参加者16人・21人 ・フレイル予防クッキング(クッキングショー編) 9/12 参加者20人 ・フレイル予防クッキング(レッツチャレンジ編) 12/2 参加者7人 ・歯ッビ〜カムカム講座&クッキング 11/12 参加者10人 ・元氣クラブA・B オーラルフレイル予防講座 3/2 参加者18人・10人 ○食生活改善推進員連絡協議会事業(吉) ・ミニ伝達講習会(交流ウオーキング・認知症カフェ等)の実施 ・よしわふれあいフェスタでの試食提供及びやさいの日およびフレイル予防等の普及啓発 ○フレイル予防の指導及び健康教育の実施(吉) ○熱中症予防の普及啓発(吉) ○健康はつかいち21推進協議会事業(宮) ・食の部会にて高齢者への食事提供として、11月18日に食事を実施し、高齢者29人が参加した。 ・8月1日の「地域ふれあいフェスタ」にて、野菜の日の普及啓発のポスター掲示とチラシ配布を行った。 ○健康相談を島内2カ所の市民センターで毎月実施した。延べ148人が参加した。健康相談後のミニ講座にて、熱中症予防やたんばく質摂取の健康教育を実施した。毎回、一体的実施の専従栄養士が同行するため、定期的に栄養相談を実施した。(宮) ○7月1日の健康チェックデーにて栄養士による栄養相談、減塩リーフレットの配布、明治安田生命のベジチェックを実施した。(宮) ○高齢者の低栄養予防指導を2人実施した。(宮) ○高齢者のサロンにて、たんばく質がとれる簡単おやつ作りを年間2回実施した。 ○「からだ若返り教室ハートビクス」にて、年間2回栄養のミニ講座を実施した。	○健康おおの21食生活と歯の健康づくり推進部会事業(大) ・R7年度の健康を守る集いで、食の部会は会場を会議室で単独で実施。山陽女子短期大学・津村准教授へSATシステムを依頼。会場では子どもから大人、高齢者が食について学ぶ体験となった。また食育や食の部会の周知等も実施。 ・R6年度からウオーキング講習会とのコラボ企画開始。運動後に摂取すると効果的な飲み物を提供。参加者から好評をいただいている。健康おおの21内での交流にも繋がっている。 ○乳幼児健診や育児相談等における栄養相談(大) ・栄養士による個別栄養相談や「やさいの日」に併せて野菜の摂取について啓発を行った。育児相談は、あかちゃんおむつプレゼント事業と同時開催し、低月齢から気軽に相談できるように見直す。 ○今日から始める運動入門での栄養講座で、健康はつかいち21の計画に沿った内容ではなかった回もあり、打ち合わせ時に内容について検討する必要がある。(大) ○一体的実施におけるフレイル予防カフェ、歯と航空に関する講座等の実施(大) ・フレイル予防カフェは回覧板、各サロンなどで周知を実施。キャンセル待ちが出るほど参加者から申込みがあった。運動後におすめの「おやつ」を提供。栄養士から運動後にタンパク質摂取について説明。参加者からも「自宅で実践してみます」と発言あり。 ・歯ッビ〜カムカム講座に参加者から身近な人に伝えたいと言われ、普及に繋がった。 ・歯ッビ〜カムカムの参加者がサロンで実施してもらいたいと依頼を受け、元氣クラブA・Bで実施に繋がった。 ○食生活改善推進員連絡協議会事業(吉) ・担い手の後継者不足 ・地域の人が誘うことにより参加する人も多い。 ・まわりに迷惑をかけたくない思いがあり伝達講習会へ参加する人が減っている ○フレイル予防の指導及び健康教育・訪問等の実施(吉) ・一般介護予防教室や座談会や広報おりこみ等を利用して啓発活動をしているが、疾病や施設入所などにより参加者が減っているが、筋力低下を理由に新規に参加する人もいる。 ・講座に参加する人は同じ人が参加することが多く同じパンフレット内容を話しにくい。 ○熱中症予防の普及啓発(交流ウオーキング・ミニ伝達講習会等)(吉) ・畑仕事などのときにペットボトルなどに水を入れて外出しているという声を聞くことが以前と比較して増加している。 ・健康相談については、少しずつ、参加者も増えてきた。課題としては、参加者の固定化があるため、新規の参加者を増やすことが課題である。 ・地域ふれあいフェスタでは、子育て世代も多く参加される。職員はイベント開催の手伝いに参加するため、ブースを設けることは難しい。引き続き、ポスター掲示やチラシで今後も継続して啓発をしていく。 ・食を推進する会と協力しながら、事業を実施しているものあり、今後も連携していく。	○第44回健康を守る集い 食生活と歯の健康づくり推進部会SATシステムや食育啓発の実施(大) ○ウオーキング講習会との食の部会コラボ(大) ○乳幼児健診や育児相談等における栄養相談(大) ○今日から始める運動入門での栄養講座を実施。(大) ○フレイル予防カフェの実施(大) ○食生活改善推進員連絡協議会事業(吉) ・伝達講習会(交流ウオーキング・認知症カフェ等) ・よしわふれあいフェスタでの試食提供及びやさいの日およびフレイル予防等の普及啓発 ○フレイル予防の指導及び健康教育・訪問等の実施(吉) ○熱中症予防の普及啓発(吉) ・各行事や各機関を通じて熱中症予防の普及啓発 ○健康はつかいち21推進協議会事業(宮) ・食の部会にて高齢者への食事提供 ○健康相談・健康チェックデーにて栄養士による栄養相談(宮) ○年1回運動指導士による運動教室「からだ若返り教室」で減塩についての健康教育を実施する。 ○高齢者の低栄養予防指導及び健康教育(宮)	各支所
			○低栄養のリスクのある人へ栄養指導を実施 ○通いの場や介護予防教室等で、低栄養予防指導及び健康教育の実施(廿・大・佐・宮・吉)	○通いの場やサロン等で、低栄養予防に関する健康教育を実施した。 ○商業施設等で栄養相談の実施。 ○高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施において、低栄養リスクのある方に対し、栄養士等から栄養指導を実施した。	○通いの場だけでなく、商業施設での栄養相談など、多様な機会で行うことができた。	○低栄養のリスクのある人へ栄養指導を実施 ○通いの場等で、低栄養予防指導及び健康教育の実施(廿・大・佐・宮・吉)	地域共生社会推進室

分野	施策	計画掲載ページ	R7年度 事業計画	R7年度 実施状況	R7年度 課題・評価	R8年度 事業計画	市の担当課
			○通いの場や介護予防教室で、低栄養等高齢期に必要な栄養指導を実施	○通いの場について、栄養についての講座を実施(7回/年)。介護予防教室においても、・低栄養予防の講話及び、栄養に関するグループワークを実施。 ○脳にいいアプリ内に食事管理項目(まごたちわやさしい)があり、まんべんなく品目を摂取するよう啓発した。	○百歳体操等の栄養講座では、「さあにぎやかにいただく」を普及啓発しており、「はつぽ」内では「まごたちはやさしい」で食事管理を普及している。「はつぽ」内では、高齢者が必要とするたんぱく質、肉、油の項目がなく、地域からも戸惑いの声がでている。「はつぽ」を普及する中で、アプリ内に表示しているある品目と併せ、肉、油を必ず摂取する必要のある事を周知していく必要がある。	○通いの場や介護予防教室で、低栄養等高齢期に必要な栄養指導を実施	高齢介護課
食の循環や環境を意識した食育の推進	①食品ロス削減の取組の推進 ②食の安全性の知識の提供	P117～118	○イベントやSNSを活用して、食品ロスに関する啓発を行い、食品ロス削減のための取り組みを分かりやすく発信する ○食生活改善推進員と連携したこどもの料理教室などでの食の安全性の知識の提供	○あいブラザまつりで食品ロスに関するチラシを設置した ○食生活改善推進員と連携したこどもの料理教室などでの食の安全性の知識の提供 ・こども料理教室(7/28実施、18人参加)	○食品ロスに関する情報についても循環型社会推進課と連携し、健康づくり事業の場面で発信できるようにする。 ○廿日市地域で毎年開催しているこども料理教室では、食中毒予防など食の安全性の知識の提供や身近な食材や旬の食材を使って、素材から作る手作り料理教室を開催している。食材の循環や環境を意識した食育の推進を食生活改善推進員と連携して進めることができた。	○イベント等において、食品ロスに関する啓発を行う。 ○食生活改善推進員と連携したこどもの料理教室などでの食の安全性の知識の提供	健康推進課
			○菜園活動の実施 ○食育の日の取組実施	○菜園活動の実施 ・トマト、きゅうり、玉ねぎ、じゃがいもなど様々な野菜の栽培を実施した ○食育の日の取組実施 ・野菜の影絵クイズや食事のマナーについてなどを食育を通して栄養士や給食調理員、保育士などが伝えた ・野菜たっぷりレシピ配付した(公立保育園)K18:N18	○菜園活動を通して、食べ物の美味しさや生産者・料理を作る人への感謝の気持ちを育むことが出来ている。 ○野菜の日レシピの配付を毎年しているが、「野菜の日」に関する保護者の認知度が上がっていない。レシピだけでなく、保育園栄養士や給食調理員の声かけや、アプローチの必要性を感じる。また、保育園ならではのこどもの体験・制作と絡めた野菜摂取増加への取り組みも検討したい。	○菜園活動の実施 ○食育の日の取組実施	こども課
			○調理員等を対象とした夏季研修会の開催 ○学校給食における地場産物の積極的な活用 ○地場産物を使用した献立やレシピを給食だよりや食育だより、市ホームページへ掲載	○調理員等を対象とした夏季研修会の開催 7月31日開催、出席者35人 演題「【実験で学ぶ！】学校給食の衛生管理研修」 出席者の約94%が今後の業務に役立つと回答 ○学校給食における地場産物の積極的な活用 地場産物の使用割合(金額ベース)53.4% ○地場産物を使用した献立やレシピを給食だよりや食育だより、市ホームページへ掲載	○夏季研修会では、現場の課題に合わせたより実践的な内容の研修を行い、衛生管理に関する専門性の向上を図ることができた。 ○地場産物の活用率については、昨年度(55%)に比べるとやや減少した。JA等、物資納入事業者と密に連携を図り、できる限り取り入れるよう努力をしているが、必要な量の安定的な確保が困難な状況にある。関係者と連携して活用率を増やす方法について検討していく必要がある。 ○学校給食の献立やおたよりについては、発信しているものの伝わっているか評価が難しい。興味や関心をもってもらえるよう、わかりやすく魅力的なものになるよう給食関係者で考えていきたい。	○調理員等を対象とした夏季研修会の開催 ○学校給食における地場産物の積極的な活用 ○地場産物を使用した献立やレシピを給食だよりや食育だより、市ホームページへ掲載	学校教育課
			○地元農業者を交えた有機農業の取組講演会を検討	○美味しい有機農業について学ぶ2日間として、「ベランダで、お庭で、あなたにもできる有機農業～Myホウレンソウを育てよう～」と題した講座を開催した。 ・10/9 福田先生による有機農業・美味しい野菜講座 ・10/23 プランターでMyホウレンソウを育てます 講師:よしわ有機農園農場長 福田さん 会場:廿日市市商工保健会館 1階多目的ホール 参加者:各回30名	○消費者向けの講座であるが、毎年講師が同じでマンネリ化している感がある。 ○2年前から、託児ありとしたところ、子育て世代や主婦層の参加が増えた。 ○今年度は、地産地消月間(10月)の取組の一つとしてPRした。(事業に影響があったかどうかは不明)	○地元農業者を交えた有機農業の取組講演会を検討	農林水産課
			○食中毒予防について、健康相談などの事業を利用して、住民に対してリーフレットを渡して周知する(佐)	○大野5区集会所における高齢者サロンで、食中毒予防について講座を行った(大)	○夏場の食中毒件数が多くなるので、家庭料理における注意点を知りたいとサロンからの要望で実施した。講座終了後には、夏場のフレイル予防に関する食事アドバイスと健診の受診勧奨を行い、市民の関心により沿った健康教育を行うことができた。	○食中毒予防について、健康相談などの事業を利用して、住民に対してリーフレットを渡して周知する	各支所
			○令和7年度食品ロス削減推進業務(委託先:廿日市商工会議所) ・「食品ロス削減協力店」登録の推進 ・食品ロス削減啓発グッズ及びPR動画の制作 ・特設サイトでの食品ロス削減に関する情報発信 ・フードドライブの普及 ・イベントへの出展 ・学生、事業者との連携(レシピ制作等)	○令和7年度食品ロス削減推進業務(委託先:廿日市商工会議所) ・「食品ロス削減協力店」…登録数32店舗 ・食品ロス削減啓発グッズ(コースター、POP)を制作し配布 ・PR動画「冷蔵庫レスキュー20・1」を制作・SNSや庁舎内等で放映 ・特設サイト「はつかいちmottainai大作戦」での食品ロス削減に関する情報発信 ・フードドライブの周知チラシを処理施設見学に来る小学生やイベント参加者へ配付 ・イベントへの出展「はつかいち環境フェスタ2025」「ベンジャーズ・ベジ」 ・学生、事業者との連携(食べきりレシピ作成) ・フードバンク活動に関する株式会社フジと株式会社フレスタホールディングスとの協定	○株式会社フジや株式会社フレスタとフードバンク活動に係る連携協定を本市社会福祉協議会と共に3者で締結し、市内のスーパーでも食品を回収し、社会福祉協議会を通じて、更に多くの食品を支援に回せる体制が構築された。 ○民間事業者(榊フレスタ)と共同で開催した「親子エコ料理教室」や、学生や地域団体と共に取り組んだ「店頭フードドライブイベント」により、若い世代ともフードロス削減活動を行った。 ○市公式LINEを活用して実施した市民への食品ロス削減の意識啓発アンケートの結果から、食品ロスの問題点や削減のための取組などの情報を本市が市民に届けるという点においては一定の成果があったと言えるものの、行動変容を促すという点においては今後更に力を入れていく必要があると考える。	○令和8年度食品ロス削減推進業務(委託先:廿日市商工会議所) ・「食品ロス削減協力店」登録の推進 ・食品ロス削減啓発グッズの配布及びPR動画の放映 ・特設サイトでの食品ロス削減に関する情報発信 ・フードドライブの普及 ・イベントへの出展 ・学生、事業者との連携(レシピ制作等)	循環型社会推進課
共食の推進、食文化の継承活動の推進	①食を通じたコミュニケーションの充実 ②食文化の継承活動の推進	P119～120	○食生活改善推進員連絡協議会事業 ・伝達講習会やイベントを通しての幅広い世代を対象とした郷土料理や行事食の提供と食文化の継承 ・JA広報紙のレシピ掲載による食文化継承活動の推進 ○健康はつかいち21推進協議会(地域会等)事業 ・朝食コンテスト実施	○食生活改善推進員連絡協議会事業 ・伝達講習会やイベントを通しての幅広い世代を対象とした郷土料理や行事食の提供と食文化の継承(全体実績:集会735回、対話・訪問735回) ・JA広報紙のレシピ掲載による食文化継承活動の推進(全体実績:大竹市と交互で年6回掲載、廿日市市HP食推掲載箇所からJAひろしまHPレシピにリンクするよう調整) ○健康はつかいち21推進協議会(地域会等)事業 ・食の健康づくり委員会の委員として、朝食コンテストの審査を実施(10/8)	○食生活改善推進員連絡協議会の研修会において、廿日市市の郷土料理について調理実習を行い、伝達講習会やイベントを通しての幅広い世代を対象に啓発を行った。食文化を継承する為には、1回で終わりではなく、引き続き、研修会等で推進していく必要がある。 ○JA広報紙のレシピ掲載では、各支部(廿日市・佐伯・吉和)の食生活改善推進員が、地元の旬の食材を使ったレシピを考案して、掲載しており、食文化継承活動を継続できている。 ○引き続き、地域の食文化を他地域にも共有し、廿日市市全体で継承できる体制作りをサポートする必要がある。	○食生活改善推進員連絡協議会事業 ・伝達講習会やイベントを通しての幅広い世代を対象とした郷土料理や行事食の提供と食文化の継承 ・JA広報紙のレシピ掲載による食文化継承活動の推進 ○健康はつかいち21推進協議会(地域会等)事業	健康推進課

分野	施策	計画掲載ページ	R7年度 事業計画	R7年度 実施状況	R7年度 課題・評価	R8年度 事業計画	市の担当課
共食の推進、食文化の継承活動の推進	①食を通じたコミュニケーションの充実 ②食文化の継承活動の推進	P119～120	○行事食や郷土料理の提供 ○クッキングの実施	○行事食や郷土料理の提供 ・セタ、節分など季節や行事に合わせた給食献立を作成し、提供している。 ○クッキングの実施 ・各園の状況に合わせて実施している。	○行事食や郷土料理の提供 ・行事や季節を感じられる魅力的な献立を作成して提供できている。 ○クッキングの実施 ・菜園活動で収穫した野菜や手作りみそづくり、ジャムづくりなど、こどもの食を営む力を育むために各園がアイデアを出しながら実施できている。	○行事食や郷土料理の提供 ○クッキングの実施	こども課
			○学校給食において、郷土料理の日などを設定し、全国学校給食週間の取組を継続 ○和食給食を基本とし、郷土料理や行事食の献立を積極的に提供	○学校給食において、郷土料理の日などを設定し、全国学校給食週間の取組を継続 ○和食給食を基本とし、郷土料理や行事食の献立を積極的に提供 ○学校給食でフェスタでの普及啓発 ・郷土料理総選挙と題して、本物の投票箱を使った模擬選挙を実施 ・廿日市市や広島県の郷土料理、特産物を使った料理から給食で食べたい料理に投票してもらった。 1位はあなご飯、2位は小イワシの唐揚げという結果だった。	○学校給食では、郷土料理や行事食の提供を継続的に行うとともに、動画や献立メッセージで食育指導を行うことで、日本の食文化を知り、ふるさとへの誇りと愛着を育む機会をつくっている。 ○家庭では食べる機会が減っている和食や郷土料理、行事食については、引き続き、学校給食を通して伝えていく必要がある。 ○料理の写真と特徴をわかりやすく書いたポスターを掲示し、親子で楽しく参加する様子が見られた。興味関心を持ってもうことができた。	○学校給食において、郷土料理の日などを設定し、全国学校給食週間の取組を継続 ○和食給食を基本とし、郷土料理や行事食の献立を積極的に提供	学校教育課
			○地場の魚介類を使用した料理教室の開催を検討。	○地元産かきを使った料理教室を4回、開催した。	○かきの大量へい死が発生し、食材の確保の見通しが立たず、料理教室や祭等の開催が危ぶまれた。また、へい死に伴い、かきの買い抑えなど風評被害が発生した。	○引き続き、地元水産物を活用した料理教室や漁業体験イベントの実施	農林水産課
			○市民センター・健康おおの21食生活と歯の健康づくり推進部会による共催(大) ・夏休み子どもクッキング ○健康おおの21食生活と歯の健康づくり推進部会事業(大) ・親子みそづくり教室 ○食生活改善推進員連絡協議会事業(吉) ・ミニ伝達講習会(交流ウオーキング・認知症カフェ等)の実施 ・JAだよりやすこやかプラザまつり等を通じて地域でとれた野菜等を利用したレシピの紹介 ・ふれあい交流センター事業(親子の料理教室)の協力 ○食生活改善推進員による減塩、野菜摂取、タンパク質摂取などのレシピによる伝達講習会(佐)	○市民センター・健康おおの21食生活と歯の健康づくり推進部会による共催(大) ・夏休み子どもクッキング 7/30実施 参加者12人 ○健康おおの21食生活と歯の健康づくり推進部会事業(大) ・親子みそづくり教室 1/17 参加者16人 ○食生活改善推進員連絡協議会事業(吉) ・伝達講習会(交流ウオーキング・認知症カフェ等)の実施 ・JAだよりやすわふれあいフェスタ等を通じて地域でとれた野菜等を利用したレシピの紹介 ○健康はつかいち21推進協議会事業(宮) ・食の部会による高齢者への食事提供として、11月に、カツカレー・サラダを会食した。 ○社協主催による「給食サービス」との連携(宮) ・一人暮らしの高齢者に対して、宮島の食を推進する会が調理した食事を提供し、市民センターで集まっの会食を年間8回実施した。その会で、熱中症予防や保健事業の案内などを啓発したり、気になる高齢者の様子確認などや準備や片付けなども一緒に実施した。	○市民センター・健康おおの21食生活と歯の健康づくり推進部会による共催(大) ・夏休み子どもクッキング・親子みそづくり教室 大人気企画で満員御礼。子供が料理や食育に興味をもてるようなレシピとなっている。 朝食を抜いて登校する子供が増えているため、自分で作ったみそで朝食を食べると目的に開催。 日本のみその食文化を継承する活動にもなっている。 ○食生活改善推進員連絡協議会事業(吉) ・JAたより等を通じて季節に応じた野菜のとりかたについては啓発できた。 ・市の実施する事業だけでなく、社協主催の事業と一緒に協力しながら実施している。高齢者が集まる場で共食を推進するだけでなく、情報提供や情報収集、また様子確認などを行える場のため、今後も継続して他の団体と協力しながら事業を進めていく。	○夏休み子どもクッキングの実施(大) ○親子みそづくり教室の実施(大) ○食生活改善推進員連絡協議会事業(吉) ・伝達講習会(交流ウオーキング・認知症カフェ等)の実施 ・JAだよりやすこやかプラザまつり等を通じて地域でとれた野菜等を利用したレシピの紹介 ・ふれあい交流センター事業(郷土料理)の協力 ○健康はつかいち21推進協議会事業(宮) ・食の部会による高齢者への食事提供 ○社協主催による「給食サービス」との連携(宮) ・食の推進する会による一人暮らし高齢者への食事提供	各支所
			○地域の情報を共有しつつ、共食の場の増加や参加する人を増やすような支援を継続する。	○生活支援コーディネーターを中心に、地域食堂やサロンといった共食の場の把握を行った。 ○関係機関等とも連携しながら、共食の場への参加の呼びかけや、そのような場が多世代交流の機会となるよう働きかけや周知を行った。	○地域食堂を運営される方の現状や、そこに来られる方の実際を把握し、関係機関と共有することができた。	○地域の情報を共有しつつ、共食の場の増加や参加する人を増やすような支援を継続する。	地域共生社会推進室
			○地域での共食の場として、こども食堂や、高齢者サロンなどへの参加呼びかけ	○高齢者サロンや通いの場への参加を呼びかけた。	通いの場等の中で昼食等を実施しているサロンへの参加者が「はつポ」の影響で増加したとの声があった。	○地域での共食の場として、こども食堂や、高齢者サロンなどへの参加呼びかけ	高齢介護課
農林水産業や多様な主体との連携による食育の推進	①農林漁業体験の推進 ②地産地消の推進	P121～122	○食生活改善推進員連絡協議会事業 地場産物を使用した料理教室を開催し、地場産物の利用促進を行う。	○食生活改善推進員連絡協議会事業 ・地場産物を使用して野菜の日に、レシピ配布と試食を提供した(3品×60食) ・JA広報紙のレシピ掲載による地産地消の推進を実施(2回×3地区)	○食生活改善推進委員やJAと連携して、JA広報誌レシピ作成や野菜の日のイベントで、多くの市民に地場産物の利用した調理レシピの配布や試食提供ができた。 ○引き続き、食に関する情報をあらゆる機会で発信していく。	○食生活改善推進員連絡協議会事業 ・地場産物を使用した料理教室を開催し、地場産物の利用促進を行う ・JA広報紙のレシピ掲載による地産地消の推進を実施する	健康推進課
			○地域との連携 ○給食に地元産食材の活用	○地域との連携 ・地元商店や地元鮮魚店等から食材を納品している。 ○給食に地元産食材の活用 ・広島県産のあきろまんや地元乳業の牛乳、吉和産のまいたけなどの食材を使用している。	○地元農家や業者との繋がりがより感じられ、生産者への感謝の気持ちを育むことができる取り組みを検討する必要がある。 ○地元食材をより活用できるよう、献立や食材を工夫していく必要がある。	○地域との連携 ○給食に地元産食材の活用	こども課
			○各校において、生活科や総合的な学習の時間、家庭科等の授業で、米作りや菜園・収穫活動、調理活動等を実施し、食べ物の大切さや自然の恵みについて学ぶことができるよう取り組む ○学校給食における地場産物の積極的な活用	○各校において、生活科や総合的な学習の時間、家庭科等の授業で、米作りや菜園・収穫活動、調理活動等を実施し、食べ物の大切さや自然の恵みについて学ぶことができるよう取り組む ○学校給食における地場産物の積極的な活用 地場産物の使用割合(金額ベース)53.4%	○一部の学校では、JA等と連携した農林漁業教育が継続的に実施できている。これらの取組をより多くの学校で実施できるよう関係課と連携していきたい。 ○地場産物の活用率については、昨年度(55%)に比べるとやや減少した。JA等、物資納入事業者と密に連携を図り、できる限り取り入れるよう努力をしているが、必要な量の安定的な確保が困難な状況にある。関係者と連携して活用率を増やす方法について検討していく必要がある。	○各校において、生活科や総合的な学習の時間、家庭科等の授業で、米作りや菜園・収穫活動、調理活動等を実施し、食べ物の大切さや自然の恵みについて学ぶことができるよう取り組む ○学校給食における地場産物の積極的な活用	学校教育課
			【市民センター】 ○地元食材を活用した料理教室の実施	【市民センター】 ○地元食材を活用した料理教室の実施 (5事業119人参加)	○市民センターにおいて、地元食材の調達から調理まで行い、地産地消への理解を深める機会が生まれている。	【市民センター】 ○地元食材を活用した料理教室の実施	地域振興課
			○地場の魚介類を使用した料理教室の開催を検討。 ○広島湾七大海の幸普及促進実行委員会と連携し、地元水産物の消費拡大を図る。	○地元産かきを使った料理教室を4回、開催した。	○かきの大量へい死が発生し、食材の確保の見通しが立たず、料理教室や祭等の開催が危ぶまれた。また、へい死に伴い、かきの買い抑えなど風評被害が発生した。	○引き続き、地元水産物を活用した料理教室や漁業体験イベントの実施 ○広島湾七大海の幸普及促進実行委員会と連携し、地元水産物の消費拡大を図る。	農林水産課

分野	施策	計画掲載ページ	R7年度 事業計画	R7年度 実施状況	R7年度 課題・評価	R8年度 事業計画	市の担当課
			○まるくる大野の食育推進リーダーと連携した食育事業の推進(大) ・夏休み子どもクッキング、親子みそづくり教室 ○食生活改善推進員連絡協議会事業(吉) ・JAだより等を通じて、きのこ料理や地域で収穫される野菜を使ったレシピの紹介 ○食生活改善推進員連絡協議会事業(佐) ・JAだよりを通じて、地域の特産物(イチゴや長なす)を使った料理の紹介	○まるくる大野の食育推進リーダーと連携した食育事業の推進(大) ・夏休み子供クッキング 7/30 参加者12人 食育推進リーダー3人参加 ・親子みそづくり教室 1/17 参加者16人 食育推進リーダー4人参加 ・ウオーキング講習会で軽食提供 10/30 参加者17人 食育推進リーダー4人参加 ○食生活改善推進員連絡協議会事業(吉) ・JAだよりやイベント等を通じて、地域で収穫される野菜を使ったレシピの紹介	○まるくる大野の食育推進リーダーと連携した食育事業の推進(大) ・食育推進リーダー認定式に参加をし、大野地域で実施している内容を説明。 ・食の部会の事業の際、食育推進リーダーにも参加してもらい事業を一緒に行っている。 ○食生活改善推進員連絡協議会事業(吉) ・JAだよりやイベント等を通じて、地域で収穫される野菜を使ったレシピの紹介ができた。イベント等で実施したレシピについては地域住民の何人から作ってみたと後日報告を受けた。	○夏休みこどもクッキングの参加依頼を実施(大) ○親子みそづくり教室の参加依頼を実施(大) ○食生活改善推進員連絡協議会事業(吉) ・JAだより等を通じて、きのこ料理や地域で収穫される野菜を使ったレシピの紹介	各支所